

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

カナダ・イヌイット社会におけるメディアの利用について：ヌナヴィク地域の事例を中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岸上, 伸啓 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5784

カナダ・イヌイット社会における メディアの利用について —ヌナヴィク地域の事例を中心に—

岸 上 伸 啓

1 はじめに

ある高名な人類学者が、現代の世界を「メディア漬け社会」と形容した(Ortner 1998)。メディアとはテレビやイーメールなど情報を伝達する媒体の総称である。通信伝達技術の発達によって、情報の伝達は高速化し、瞬時にして同一の情報が世界中に広がるようになった。そしてテレビやラジオによって人々に伝達される情報が、世界各地の人々の生活や文化に大きな影響を及ぼすようになってきた(例えば、Kottak 1999)。

メディアに関する研究はコミュニケーション論やカルチュラル・スタディーズの分野でおもに行われてきたが(Curran, Morley and Walkerdine 1996; Priest 1996)、世界の周辺地域においてメディアの利用によって急激に変容をとげる文化を目の当たりにした人類学者もメディアを研究するようになってきた(例えば、Lent 1980; Allen 1994; Moran 1996; Askew and Wilk 2002; 飯田 2003)。

北アメリカの北方先住民は、特に1970年代以降、テレビやラジオの利用を通して世界中からの情報に接するようになった。このため、人類学者はイヌイットやクレーなど北アメリカの先住民社会のラジオやテレビ、電話、雑誌などに関する研究を行ってきた(例えば、Valaskakis 1979; Graburn 1982; Valaskakis 1982; Roth 1982; Stenbak-Lafon 1982; Hanks, Granzberg and Steinbring 1983; Cranston 1984; Raudsepp 1985; Lucas 1987; Linttel 1988; Condon 1990; Koebberling 1990; Demay 1991; Perrot 1992; Smith and Brigham 1992; Blundell 1993; Bredin 1993; Burgess 1993; 岸上 1993; Roth 1993; Cook and Orozco 1994; Framer 1994; Meadows 1995; Fiarchild 1998; Alia 1999; Bird 1999; Madden 1999; Seberich 1999; Avison and Meadows 2000)。

本稿の目的は、現在のイヌイットがどのようなメディアに接しているか、また、どのようにメディアを利用しているかを素描することである(注1)。

2 カナダ・イヌイットとメディア

カナダの極北地域では、第2次世界大戦後、各地に軍事基地やレーダー基地が設置されるにつれて、駐屯米兵のために英語によるラジオ放送が定期的に行われるようになった。1970年代にはモントリオールからショートウェーブ放送で1日1時間のイヌイット語による放送が始まった。そして1983年にはカナダ政府は北方放送政策を採択し、北方先住民が母語と文化を維持し、かつ発展させることができるように放送番組を制作し、放送することに対して資金援助および技術援助を行ってきた(Smith and Brigham 1992:186)。

私は1984年にカナダ・ケベック州極北部ヌナヴィク地域にあるアクリヴィク村をはじめて訪れた時に、放送メディアについて奇妙な光景を目にした。イヌイットの家の居間には日本製のカラーテレビが置かれており、一日中、スイッチが入れられたままであったが、音声は消されていた。一方、ラジオのボリュームは最大にされ、一日中、ラジオ番組が放送されていた。すなわち、人々はラジオを聴きながら、テレビの画面にうつる映像を見ていたのである。テレビ番組は英語のCBC放送、フランス語のCBC放送、英語のCTV放送の3チャンネルしかなかったが、多くの老人は英語やフランス語を理解することができないため、彼らにとってテレビは映像をみて楽しむ道具であった。一方、村のラジオは、カナダ放送の英語によるニュース以外は、村人がボランティアのDJとして音楽を流したり、地元の情報をイヌイット語で放送したりしていた。

それから15年後には、アクリヴィク村では衛星放送を利用したケーブル・テレビ番組を40チャンネル近く見ることができるようになっていた。ラジオ放送もイヌイット語による広域番組も増加した。この20年あまりの間に、イヌイットはラジオやテレビを通して多様な情報に接することができるようになり、彼らの生活に大きな影響を及ぼすようになった。

私は、2002年9月17日から10月19日までケベック州のモントリオール(Montreal)とクージュアック(Kuujuaq)村において、そして2003年9月10日から10月9日までケベック州のモントリオールとアクリヴィク(Akulivik)村においてメディアがイヌイット社会に及ぼした諸影響に関する調査を実施した。

モントリオールはケベック州最大の都市であり、マクギル大学やコンコーディア大学にはイヌイット文化や北方メディアの研究者がいる。クージュアック村はウンガヴァ湾の南端に位置し、ケベック州極北部ヌナヴィク地域の政治経済の中心である。その人口は約2200人で、ヌナヴィク地域で最大の村である。一方、アクリヴィク村は、ハドソン湾に面するケベック州北西部に位置する典型的なイヌイットの村である。その人口は約450人である。これらの村のほぼすべてのイヌイット世帯は、テレビやラジオ、ビデオ機器、電話を所有し、利用している。

モントリオールにおいて私は、イヌイット社会おけるメディアの研究に関する情報

をマクギル大学の図書館所蔵資料や研究者から収集した。クージュアック村とアクリヴィク村では、イヌイットがどのようなメディアを利用しているかを参与観察するとともに、テレビやラジオの番組の嗜好について簡単なインタビューによる予備調査を行った(注2)。また、地元のFM放送局において関係者にインタビュー調査を実施した。その結果、イヌイットの人たちは、日常生活においてFMラジオ、テレビ、電話、新聞などを利用し、さまざまな情報を得ていることが判明した。この論文は、その成果の一部としてイヌイットのメディアの利用について報告したものである。

3 ラジオ

カナダのヌナヴィク地域におけるラジオ放送は、CBC North(注3)やTaqrmiut Nipingat Incorporated (「ヌナヴィクの声」、以下ではTNIと略称する)によるヌナヴィク地域全体へのFM放送と村のFM放送局による地元の村だけを対象にした放送との2種類に大別できる。ヌナヴィク地域のすべての村には村専用のFM放送局が存在しており、村役場によって管理され、2名前後のDJを雇い、放送を行っている。

3-1 CBC North放送とTNI放送

2003年現在のヌナヴィク地域全体を対象とするラジオ放送は、CBC NorthとTNIによる放送である。

1970年代にはCBC Shortwave Radio Networkが、毎日正午から午後1時までの1時間、モントリオールからイヌイット語による放送を行っていた。その後、かつての北西準州(現在のヌナウト準州)のイカルイト(Iqaluit)にCBC North支局が開設され、クージュアックではCBC Northの支局が1986年に開設され、Kuujjuuaq Tuttavik支局と命名された。

このほかにも、ランキン・インレット(Rankin Inlet)とケンブリッジ・ベイ(Cambridge Bay)にCBC North支局が開設されている。これらのCBC North支局は、独自のラジオ番組を制作するとともに、モントリオールやウイニペグなど南からのカナダ全体に関するニュース番組やさまざまな番組を放送している。

2002年10月の時点におけるヌナヴィク地域全域に放送されているCBC Northのラジオ番組は、時間帯ごとに紹介すると次の通りである。

- 6:00- 9:00 イカルイトから英語とイヌイット語での放送
- 9:00-10:00 サルイトのTNIがイヌイット語で放送(対象はヌナヴィク地域のみ)
- 10:00-12:00 モントリオールからの英語の放送
- 12:00-12:30 イカルイトからイヌイット語の放送
- 12:30-13:00 英語とイヌイット語で各地域の放送
- 13:00-14:00 サルイトのTNIがイヌイット語で放送(対象はヌナヴィク地域のみ)
- 14:00-15:00 イカルイトからイヌイット語での番組"Tausnmi"
- 15:00-16:00 クージュアックからのイヌイット語での放送

16:00-17:00	ランキン・インレットからのイヌイット語での放送
17:00-17:30	ランキン・インレットからの英語での放送
17:30-18:00	ランキン・インレットからのイヌイット語での放送
18:00-20:00	モントリオールからの英語での放送
20:00-21:00	サルイトのTNIからイヌイット語で放送(月曜日から木曜日まで)
21:00-22:00	クージュアックからイヌイット語での再放送(ヌナウトにも放送)
22:00-22:30	イカルイトからのイヌイット語での放送
22:30-23:00	イカルイトからイヌイット語による文化関係の放送

この番組表からわかるように、CBC放送の枠を利用してTNIのラジオ番組が1日3時間放送されている。クージュアック村にあるCBC North支局では、1日1時間のイヌイット語による独自の番組を制作し、放送している。その内容は、天気予報、ヌナヴィクの村からの報告(1回の放送で1村、14回で最初の村にもどる)、海外ニュース(3-4分程度で、インターネットで配信されてくる情報の中から選ぶ)、ヌナヴィク地域の政治的リーダーとのインタビュー、文化番組(亡くなってから2年以上たった古老が語ったテープを家族から許可を得て放送する)などである。

TNIは、1975年にヌナヴィク地域のイヌイットによって設立されたラジオとテレビのネットワーク組織である。ヌナヴィク地域では1975年に「ジェームズ湾および北ケベック協定」が締結されると、地方政府と村々との間にコミュニケーションの必要性が生じた。TNIの最初のミッションは、ヌナヴィク地域の村々を結ぶラジオ・コミュニケーションのシステムを作り上げることであった。TNIは、村々に低予算で、低出力のFM放送局を作っていた。また、1978年にはサルイト(Salluit)にラジオ番組を制作する施設を開設し、ラジオ番組が制作された。番組はテープに録音され、各村のFM放送局に送られ、そこから放送された。1980年にはテレビ番組制作の施設がサルイトに付け加えられた。

現在のTNIのミッションは、イヌイットの文化やイメージを促進させるために、イヌイットのラジオ番組とテレビ番組を制作し、イヌイット社会の内外に放送することである。そしてこの組織のより具体的な目的は、(1)ヌナヴィク地域のコミュニケーションを発展させること、(2)イヌイットのアイデンティティと関心を促進させること、(3)イヌイットの放送関係者、マネージャー、技師を養成すること、(4)社会、教育、政治、経済に関する情報を広めること、(5)諸先住民族の間のコミュニケーションを改善させること、(6)文化活動を奨励すること、そして(7)イヌイットの伝統を記録に残し、保存することである。TNIは1週間あたり15時間のラジオ番組と30分間のテレビ番組を制作し、放送している。

現在、制作し、放送しているラジオ番組は、放送時間順にまとめると、次のとおりである。すべてイヌイット語による番組である。

9:05-10:00 番組名Qittaisaut（月曜日から金曜日まで）：ヌナヴィクの村々からのレポート、情報、ニュース、インタビュー、音楽などがおもな内容

13:05-14:00 番組名Atsaataut（月曜日から金曜日まで）：健康や教育など家庭問題がおもな内容

20:05-21:00 番組名Siupiruit（月曜日と金曜日）：伝統的な文化やいろいろな音楽などがおもな内容で、老人たちを対象としている。

20:05-21:00 番組名Tusaruminartut（火曜日）：ゴスペル（キリスト教の教え）とキリスト教にかかわる音楽がおもな内容

20:05-21:00 番組名Uvikanuulingajut（水曜日と木曜日）：若者を対象とし、現代音楽や楽しい話題、トークショーなどがおもな内容

これらの番組は、現在のところCBC Northのラジオ放送を利用してヌナヴィク地域全体へと配信されている。

3-2 アクリヴィク村とクージュアック村におけるラジオ放送

次に、クージュアック村とアクリヴィク村におけるイヌイット語での村のFMラジオ放送の状況について紹介したい。これらの村のFM放送局と放送は、現在では村役場によって管理、運営されている。

クージュアック村のFMラジオ局では、月曜日から金曜日まで毎日4時間、10:00-12:00、14:00-15:00、16:00-17:00の時間帯に独自の放送がイヌイット語で行われている。この時間帯には、DJが音楽を放送することが多いが、村人の伝言や週に2度ほど村役場からの知らせがDJや村の役人によって放送される。また、村人の誕生日のお祝いのメッセージを放送したり、村人の誰かが亡くなった時には1日中ゴスペルソングを放送したりする。上記の時間帯以外には、CBC North（とTNI）の番組を放送している。この放送局では土曜日は地元の放送がなく、一日中CBC Northのラジオ番組を流している。また、日曜日は村の教会委員会（Church Committee）がボランティアで、13:00から17:00まで地元の放送を行っている。それ以外の時間帯には、CBC Northの番組を放送している。

アクリヴィク村のFMラジオ局では、8:00-9:00、10:00-12:00、16:00-19:00、21:00-23:30の時間帯に、村人のDJによる放送が行われている。それ以外の時間帯には、9:00-10:00はサルイトからのTNIの番組が、12:30-13:00はイカルイトからのCBC Northの番組が、13:00-14:00はサルイトからのTNIの番組が、15:00-16:00はクージュアック村からのCBC Northの番組が、20:00-21:00はサルイトからのTNIの番組が放送されている。

アクリヴィク村やクージュアック村ではCBC Northの英語による番組を地元の放送局とは異なる周波数でも、聞くことができる。村のFM局からの放送時間帯であっても、1時間ごとに（最初の）5分間は英語によるCBCニュースが放送されることになっている。両村では週に2回程度ビンゴ・ゲームを、村のFMラジオを利用して実施している。

クージュアック村では、地元のFM局の放送とCBC Northの放送以外に、フランス

語のRadio Canada放送を聴くことができる。また、クージュアック村では発信施設が整備されたため、村から80キロメートル以内の範囲で村のFM放送を聞くことができる。さらにクージュアック村では村のFM放送をショートウェーブでも放送しているので、狩猟中にハンターは無線機で聞くことができるようになった。

アクリヴィク村では、多くの家庭において村のFMラジオ局からの放送が一日中かけられているが、特に中高年の世帯でその傾向が顕著にみとめられる。一方、若者の中にはほとんどラジオを聞かない人もいる。2003年のアクリヴィク村でのインタビュー調査によると、ラジオを聴く1日の平均時間は約3時間30分であった。さらに、学生や定職についている人は学校や職場にいる時間が長いために、それ以外の人よりもラジオを聴いている時間が短い。村人は、午前8時から午前9時までの時間帯と正午から午後1時までの時間帯にラジオ放送をよく聴いているため、村役場からの告知や情報提供はそれらの時間帯になされることが多い。また、村人が特定の人を探すときや誰かに電話をかけてもらいたい時には、ラジオ局に電話をかけ、DJに頼んで伝言を放送してもらっている。さらにクージュアックやイカルイト、サルイトからの放送番組は、ヌナヴィク地域の他の村の様子やヌナヴィク以外の地域のイヌイットの様子を放送するので、多くの村人は楽しみにしている。

3-3 FMラジオの利用

アクリヴィク村においても、クージュアック村においても多くの家庭で、ラジオが1日中かけっぱなしにされている。彼らは村内外で起こった事件や他の地域のイヌイットのこと、天気予報についてイヌイット語のラジオ放送を通して知ることが多く、イヌイット語によるラジオ放送は、イヌイットにとって重要な情報源である(注4)。

村のFMラジオで重要な機能は、電話とラジオ放送を組み合わせた村レベルでの情報の共有と意見交換である。酒の問題や教育問題などの村人全員がかかわるような話題を村の役人や古老がラジオを通して放送すると、それに関するさまざまな意見が村人から電話を通してラジオ局に寄せられ、村全体に流される。これは1種のフォーラム機能である。さらにそれらの情報や意見は村人全体で共有されることになる。現在のイヌイットの生き方や志向は多様化する傾向にある。さらにイヌイットの村は、人口増加によりますます家屋の数が増え、空間的に拡大し続けている。このような状況で個人が他の村民全員に直接的に会って、意見を交換することは不可能に近い。しかし、ラジオと電話を組み合わせれば、村全体での意見交換が可能である。この電話とラジオ放送を組み合わせたフォーラム機能は、村を社会的に統合する機能を有しているといえよう。

また、村役場や学校、病院・看護所、生協、エアー・イヌイットからの連絡や告知が村のFMラジオ局から放送されている。村人は、特定の人を探している場合や余分の食料があり、分配を知らせる場合に伝言の手段として、村のFMラジオ放送を利用している。例えば、特定の人Aさんを探している場合には、「AさんにXXXX番に電話

するよう」という伝言を放送してもらおう。また、ハンターが大量のカリブーの肉やシロイルカの皮部を持ち帰った時には、欲しければ村人に特定の場所までとりに来るようにと放送で村人に知らせることが多い。このように村のFMラジオ放送は、村レベルで情報を伝達し、共有するための重要な手段である。

4 テレビ

1980年代から1990年代の終わりにかけて、ヌナヴィク地域で見ることができた番組は、CBCの英語番組とRadio Canadaのフランス語番組、CTVによる英語の民間番組だけであった。しかし、1990年代の終わりから、ヌナヴィク地域の各村の生協がケーブル・テレビ会社と契約を結び、衛星放送を利用して、月額50ドルの料金で約40チャンネルの番組を受信できるようになった。

2002年にクージュアック村で見ることのできるチャンネルとケーブル・テレビ局名は次の通りであった。2チャンネルはEPG(番組紹介)、3チャンネルはクージュアック村の宣伝・伝言番組、4チャンネルはAPTN(先住民ネットワーク番組)、5チャンネルはWSBK、6チャンネルはCBCN(ニュース専門番組)、8チャンネルはLIFE、9チャンネルはSPACE、10チャンネルはフランス語によるCBC、11チャンネルはOLN、13チャンネルはCOM(コメディ専門番組)、14チャンネルはTSN(スポーツ専門番組)、15チャンネルはTMN1(映画専門番組)、16チャンネルはONT、17チャンネルはWDZV、18チャンネルはWXYZ(CBS)、20チャンネルはCBCN(ニュース専門番組)、21チャンネルはWTOC、22チャンネルはCTV、23チャンネルはBCTV(CTV)、24チャンネルはWTVS、25チャンネルはTQS(フランス語番組)、26チャンネルはRQ(フランス語番組)、28チャンネルはTSC(ショッピング番組)、29チャンネルはTFO(フランス語番組)、30チャンネルはRDS(フランス語番組)、31チャンネルはASN、32チャンネルはRDI(フランス語番組)、33チャンネルはMMC(音楽専門番組)、DSC(ディスカバリー)、35チャンネルはTBS(スーパーステーション)、36チャンネルはSNN、37チャンネルはTVO(Access)、38チャンネルはNTV、39チャンネルはCBCM、40チャンネルはTVA(フランス語番組)、41チャンネルはA&M、42チャンネルはYTV、43チャンネルはFOX、44チャンネルはTLC、45チャンネルはBRV、46チャンネルはSCN(Show Case)、47チャンネルはHIST(歴史関連番組)、48チャンネルはCMT(音楽専門番組)、49チャンネルはTOON(漫画専門番組)、52チャンネルはCNN(ニュース専門番組)、54チャンネルはTMN2(映画専門番組)、55チャンネルはTMN3(映画専門番組)、57チャンネルはTMN4(映画専門番組)である。このうちアメリカの番組はデトロイトから配信されている。

アクリヴィク村においても、クージュアック村においてもほぼすべての世帯が生協を通してケーブル・テレビに加入しており、ニュース、映画、音楽、キリスト教、スポーツ、漫画からポルノまで幅広い番組を見ることができる。また、クージュアック

村では、Bell Express Vu（ベル・カナダの関連会社）による衛星放送がケーブル・テレビとは別に配信されており、契約を結び、月額100ドルの料金を支払えば、100チャンネル以上の番組を見ることができる。

TNIはNunavimut（「ヌナヴィクの住人」）という30分間のテレビ番組を制作し、火曜日の午後2時から2時30分までAPTN（先住民族テレビネットワーク）のチャンネルで放送している。この番組はヌナヴィクのイベントや政治、文化、狩猟やキャンプのような伝統的な活動に関するものが多い。

アクリヴィク村での2003年のインタビュー調査によると、1日の平均的なテレビの視聴時間は約4時間である。ラジオと同様に学生や定職についている人の方が、それ以外の人よりも視聴時間が短い傾向にある。番組の嗜好については世代差や男女差が見られるが、あえて一般化すれば、ディスカバリー・チャンネルのような動物や自然、世界各地の風物詩についての番組、アクション映画など映画番組、ホッケーなどスポーツ番組、コメディ番組を好んで見ている。現代のイヌイットの人々は、娯楽としてテレビを見ることが多いが、ニュース番組やドキュメンタリー番組を通して世界各地で発生している事件や災害について驚くほどよく知っている。

先住民テレビネットワーク（Aboriginal People Television Network）によるカナダの先住民（ファースト・ネーションズ、イヌイット、メーティス）の多様な世界に関するテレビ番組が放送されているが、イヌイットに関する番組は少なく、かつ放送時間帯が昼間であるため、イヌイットの人たちはあまり見ていないとのことであった。

イヌイットは南に住むカナダ人やアメリカ人とまったく同じテレビ番組を同じ時間帯に見ている。彼らにとってテレビは娯楽の手段のみならず、社会の外部からさまざまな情報を入手する重要な手段であるといえる。

5 電話

電話はイヌイットの現代の日常生活において不可欠な通信手段である。電話を利用すれば、村内外の家族や親族、友人に連絡を取ることができる。また、村のFMラジオ局に電話をかければ、村全体に情報を流すことができる。さらに、サルイト村やクージュアック村のラジオ局に電話をかければ、ヌナヴィク全域に情報を流すことができる。

アクリヴィク村のイヌイットは、おもに村内の家族や親族、友人、仕事場の同僚などにもっとも頻繁に電話をかけている。食事への招待や何かを借用したい時の打診、狩猟や仕事の打ち合わせなどに電話を利用することが多い。また、すでに紹介したように、連絡を取りたい人物を探す場合には、村のラジオ局に電話をかけ、伝言を放送してもらうことができる。

他の村やモンリオールなど都市に住む家族や親族、友人に電話で連絡をすることがあり、お互いに会うことができなくても、電話をかけることによりお互いの状況を

知らせあうことができる。特に、村外に住む家族、親族、友人の消息、出産、死亡についての情報を電話によって得ることができるようになった。電話は、物理的に離れていても人々の心を結びつけ、社会関係を維持させる機能がある。また、お金を他の村に住む家族や親戚に無心する場合や他の村の親族や友人に何かを送ってくれるように依頼する場合にも電話が利用されている。

電話の基本料金は約50カナダ・ドルである(注5)。あるイヌイットの家庭の2003年8月の電話代は275ドルであった。その世帯に住むイヌイットは、隣村のプヴニツク村(Puvimituq)やモントリオールに住んでいる家族や親族に電話をかなりの頻度でかけていた。

このようにイヌイットによる電話の利用は情報交換機能だけでなく、イヌイット間の物理的距離を短縮させ、社会関係を維持する手段として機能を果たしているといえる。

6 文字媒体

イヌイット語の文字媒体は、聖書や新聞などに限られており、その種類はあまり多くはない。その中で、アクリヴィク村のイヌイットがもっとも頻繁に読んでいるのは、ヌナチャック・ニュース(Nunatsiq News)というヌナヴト準州のイカルイトで週に1度の割合で発行されている新聞である。この新聞では、ヌナヴト準州やヌナヴィク地域の政治、経済、文化、事件などに関する記事や政府関係や一般企業の広告、求人情報が英語とイヌイット語で出版されている。アクリヴィク村などではこの新聞紙は生協の店舗で村人に無料で配布されている。

マキヴィク(Makivik Corporation)というヌナヴィク地域の政治経済団体が発行するマキヴィク・マガジーン(Makivik Magazine)が季刊で発行されている。この雑誌は、マキヴィクの活動を中心にヌナヴィク地域の政治経済に関する情報を掲載している広報誌である。

電話でオーダーし、郵送で商品を手入手するための通信販売用のカタログがシアーズなどからアクリヴィク村のイヌイットにダイレクトメールで送られてきている。これらのカタログを利用して衣料品やクリスマス・プレゼントを購入している。また、アクリヴィク村の滑石彫刻家たちの何人かは、イヌイット・アート財団が発行するInuit Art Quarterlyを定期購読している。

上記のほかに、村の看護所、社会福祉事務所、ケベック州政府事務所、村役場には政府関係の広報用や情報提供用のパンフレットやチラシが置かれており、村人は入手し、読むことができる。

多数の文字媒体が存在しているが、多くのイヌイットの間では聖書やヌナチャック・ニュース紙を例外にすれば、文字媒体を読むことはあまり一般的ではない。

7 その他の媒体：ビデオ、インターネットの利用、GPS、無線機

これまで紹介してきた情報媒体以外に、無線機(VHF Radio)、ビデオ、インターネット、カメラ、ビデオ撮影機、GPS(Geographical Positioning System)、ファックスなどがイヌイット社会で利用されている。

カメラやビデオ撮影機を持っているイヌイットは、子供の成長過程、結婚式やクリスマスのゲーム大会などのイベントを撮影することがある。

また、ビデオ映画を生協などから借りてみるイヌイットや自宅に多数のビデオ映画のカセットを所有しているイヌイットが多数いる。また、任天堂やソニーのプレーステーションのようなテレビ・ゲームがイヌイットの子供の間に普及している。イヌイットは余暇にビデオ映画をみたり、テレビ・ゲームを楽しんだりしている。1980年代のイヌイットは、狩猟や仕事が終わると、余暇を利用して村内に住む家族や親族、友人を頻繁に訪ね歩いていたが、現在のイヌイットは家の中にとどまる時間が長くなり、他の家を訪問する頻度が減少してきている。

役場関係や学校関係の事務所や生協では、村外にある関係機関や業者との通信に電話とファックスを利用していることが多い。コンピューターやそれを利用したインターネットはイヌイットの間ではほとんど普及していないが、学校ではホームページの検索・閲覧やイーメールによる他者との交信を学校教育の一部として行っている。また、学校関係者や政府関係者の中には、仕事場でイーメールを利用しているイヌイットがいる。

キャンプや遠隔地に狩猟に行くハンターは無線機を持参し、他のキャンプ地や村にいるハンターと交信している。狩猟の情報を交換する手段として、また危険な目にあった場合には救助を求めるための緊急連絡用の手段として、無線機が利用されている。キャンプ地同士やキャンプ地と村との間での無線機を利用した交信は、村人の楽しみのひとつである。最近では、狩猟中の遭難を避けるために、GPSの端末器を持つハンターやレンジャー隊員がいる。

8 結語

この20年の間にイヌイット社会ではメディアの種類が急激に増加し、かつ多様化してきた。現代のイヌイット社会では多様なメディアが日常のあらゆる場面で利用されており、日常生活や狩猟活動、余暇の過ごし方に大きな影響を与えている。メディアは社会の変化を生み出す要因であるとともに、社会や文化を維持するための重要な手段でもある。

本稿では、現代のイヌイットの人々が複数のメディアをどのように利用しているかを素描した。世界の周辺地域に住むイヌイットはメディアの普及と活用により、われわれと同じ情報に同じ時間に接することができるようになった。イヌイットはわれわれとは地理的に離れていても、社会的にかつ時間的には同一の世界に住む隣人である

といえよう。これは経済や文化のグローバル化の1側面をあらわす現象の一つである。ここで述べたことを整理すれば、次のようになる。

- (1)イヌイット社会では、文字媒体よりも視聴覚媒体の方がより高い頻度で利用されている。
- (2)村内FMラジオと電話は、村の中や他の村との情報交換や情報を得るためのもっとも重要なメディアである。村内FMラジオ放送は、電話を利用することにより村レベルで情報を伝達し、検討するフォーラム的な機能を有している。さらに村全体で情報を共有するための最も重要な手段である。
- (3)電話は、村外に住む家族や親族、友人との連絡に利用されており、社会関係の維持や相互扶助の機能を果たしている。
- (4)テレビ放送およびCBC NorthやTNIのラジオ放送は、村外からの情報を得るためや娯楽のためにイヌイットによって利用されている。
- (5)学校教育の現場や役場仕事においてコンピューターが普及し、インターネットの利用が一部では行われているが、2003年の時点では一般家庭にまでは浸透していない。
- (6)ビデオ、テレビ・ゲーム、ケーブル・テレビなどは、イヌイットの余暇の過ごし方に大きな変化をもたらしてきた。特に、余暇時間における他の家への訪問頻度が減少してきている。

また、本稿ではふれることができなかったが、多数のイヌイットの政治団体や経済団体、村役場などが独自のホームページをインターネット上に開設し、世界中に情報の発信を行っている。イヌイットがいかなる情報をいかなる目的で世界に発信しているかといった、イヌイットによるインターネットの利用に関する研究は、今後の課題としたい。

注

(注1)本研究は、スチュアートヘンリ教授（昭和女子大学）を代表とする日本学術振興会の科研プロジェクト「カナダ先住民社会におけるメディアの諸影響」の成果の一部である。研究分担者として現地調査の機会を与えてくれたスチュアートヘンリ先生と日本学術振興会に対し、感謝の微意を表したい。

(注2)2003年にアクリヴィク村の実施したインタビュー調査では、14人にテレビ、ラジオ、電話などについて質問をした。今回のインタビューに参加してくれた人の約半数が30歳代の無職の男性であり、村の人口全体を代表したものではないことを明記しておく。このインタビュー調査は継続中であり、ここで提示した傾向は予備的な結果である。

(注3) なお、CBC とはCanadian Broadcasting Corporation(カナダ放送会社)の略で、

日本のNHKに相当するテレビ・ラジオ番組制作・放送組織である。

(注4)カナダの先住民のラジオ放送については、一般的に次のようにいうことができる。村の放送局は村の情報や娯楽を村人に提供する。地域全体の放送局は地域や文化に関連する番組を制作し放送している。初期のCBC放送はカナダ全体に関する番組を制作し、放送していた(Smith and Brigham 1992: 187)。

(注5)カナダの電話料金の制度では、村内への電話代は基本料金に含まれているため、何度かけても料金を取られることはない。

参考文献

- Allen, Susan L. (ed.)
1994 *Media Anthropology: Informing Global Citizens*.
Westport, Conn: Bergin and Gravey.
- Alia, Velerie
1999 *Un/covering the North: News, Media and Aboriginal People*.
Vancouver: UBC Press.
- Askew, Kelly and Richard R. Wilk (eds.)
2002 *The Anthropology of Media*. Malden, Mass: Backwell Publishers.
- Avison, Shannon and Michael Meadows
2000 Speaking and Hearing: Aboriginal Newspaper and the Public Sphere
in Canada and Australia. *Canadian Journal of Communication* 25(3):
347-366.
- Bird, Elizabeth
1999 Gendered Construction of the American Indian in Popular Media.
Journal of Communication 49(3):61-83.
- Blundell, Valda
1993 Echoes of a Proud Nation: Reading Kahnawake's Powwow as a
Post-Oka Text. *Canadian Journal of Communication* 18(3):333-350.
- Bredin, Marian
1993 Ethnography and Communication: Approaches to Aboriginal Media.
Canadian Journal of Communication 18(3):297-313.
- Burgess, Marilyn
1993 Canadian "Range Wars": Struggles over Indian Cowboys. *Canadian
Journal of Communication* 18(3): 351-364.
- Condon, Richard G.
1990 Arctic Bibliography: A Guide to Current Arctic and Subarctic
Periodicals. *Arctic Anthropology* 27(2):113-122.

Cook, Ray and J. Orozco

- 1994 Native Community Radio: Its Function and Future.
Akwekon Journal 11(3/4): 61-62.

Cranston, Paul

- 1984 Inuit Television Broadcasting: Cultural Identity and Expression in a New Medium. MA Thesis, Dept. of Anthropology, McGill University.

Curran, James, David Morley and Valerie Walkerdine (eds.)

- 1996 *Cultural Studies and Communications*. New York: E. Arnold.

Demay, Joel

- 1991 Clarifying Ambiguities: The Rapidly Changing Life of the Canadian Aboriginal Print Media. *The Canadian Journal of Native Studies*. 11(1):95-112.

Farmer, Gary

- 1994 Native Language Survival: The Context of Radio and Television.
Akwekon Journal 11 (3/4):63-64.

Fiarchild, Charles

- 1998 Below the Hamelin Line: CKRZ and Aboriginal Cultural Survival.
Canadian Journal of Communication 23(2): 163-187.

Graburn, Nelson H. H.

- 1982 Television and the Canadian Inuit. *Études/Inuit/Studies* 6(1):7-17.

Hanks, C. C., G. Granzberg and J. Steinbring

- 1983 Social Change and the Mass Media: The Oxford House Cree, 1909-83.
Polar Record 21(134): 459-465.

飯田卓 責任編集

- 2003 「特集 マスメディア社会に向き合う人類学」『民博通信』102:1-17.

岸上伸啓

- 1993 「カナダ・イヌイト社会におけるニューメディア革命」『Arctic Circle』(北海道立北方民族博物館) 6: 15-17。

Koebberling, Uschi

- 1990 Extending Telephone to Canada's North: Experiences with Service Availability, Quality and Rate. *Canadian Journal of Communication* 15(2):16-32.

Kottak, Conrad P.

- 1999 Television Impact on Values and Local Life in Brazil.
Journal of Communication 41(1): 70-87.

- Lent, J.A. (ed.)
1980 *Case Studies of Mass Media in the Third World*. Williamsburg, Va: Dept. of Anthropology, College of William and Mary.
- Linttel, Perry
1988 The History of CBC Northern Services Broadcast Recordings. *The Canadian Journal of Native Studies* 9(2):291-293.
- Lucas, Martin
1987 TV on Ice (Inuit Television). *New Society* 79(9, January):15-17.
- Madden, Kate
1999 News the Inuit Way: Qagik, a Tool for Cultural and Political Environment. *Recherches Amerindiennes au Quebec* 29(3):19-26.
- Meadows, Michael
1995 Ideas from the Bush: Indigenous Television in Australia and Canada. *Canadian Journal of Communication* 20(2):197-212.
- Moran, Emilio F. (ed.)
1996 *Transforming Societies, Transforming Anthropology*. Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Ortner, Sherry B.
1998 Generation X: Anthropology in a Media-saturated World. *Cultural Anthoropology* 13 (3):414-440.
- Perrot, Michel
1992 La Radio et la Television dans les Societes Inuit: Groenland, Canada, Alaska et Tchouktka. *Études/Inuit/Studies* 16(1-2): 257-289.
- Priest, Susanna Homig
1996 *Media Research: An Introduction*. Thousand Oaks, Calif.: Sage Publications.
- Raudsepp, Enn
1985 Emergent Media: The Native Press in Canada. *Canadian Journal of Communication* 11(2): 193-209.
- Roth, Lorna F.
1982 The Role of Communication Projects and Inuit Participation in the Formation of a Communication Policy for the North. MA Thesis, Graduate Communications Program. McGill University.
1993 Mohawk Airwaves and Cultural Challenges. *Canadian Journal of Communication* 18(3):315-331.

Seberich, Michael

- 1999 When the Raven Speaks: First Nations Radio Broadcasting in British Columbia. *Recherches Amerindiennes au Quebec* 29(3):27-39.

Smith, b. L. and J. C. Brigham

- 1992 Native Radio Broadcasting in North America: An Overview of Systems in the United States and Canada. *Journal of Broadcasting and Electric Media* 36(2):183-194.

Stenbak-Lafon, Mianne

- 1982 Kalaalit-Nunaat Radio: To be Master of One's Own Media, Is to Be Master of One's Own Fate. *Études/Inuit/Studies* 6(1): 39-47.

Valaskakis, Gail G.

- 1979 A Communication Analysis of Interaction Patterns: Southern Baffin, Eastern Arctic. Ph.D. Thesis, Graduate Programme in Communications.
- 1982 Communication and Control in the Canadian North. *Études/Inuit/Studies* 6(1): 19-28.

(国立民族学博物館・先端民族学研究部)